

旭区意見交換会 ～学校選択制と中学校給食について～ (概要)

- 平成24年4月22日(日) 午後2時～4時
- 大宮小学校 講堂
- (旭区) 山本区長、馬場副区長兼総務課長
(教育委員会事務局) 山本学校適正配置担当課長、深見学校保健担当課長、
余川主任指導主事
- 参加者数 70名

【区長あいさつ】

皆さん、こんにちは。本日は、この意見交換会の趣旨は、ただいま司会のほうからもご説明させていただきましたし、また目的等はのちの資料にもございます。できるだけ、説明の時間や皆様方からご意見をお聞きする時間を取りたいと思っておりますので、早速説明のほうに入らせていただきます。

<区長より学校選択制、中学校給食について説明>

【質疑応答等】

- 情報をどれだけきちんとみんなに伝えるかということが大事だと思います。他都市の学校選択制のメリットと課題ですけれども、区長は他のところでメリットを感じて続けていまして発言されたけども、いろいろ調べてみても、そういうことはほとんどないです。特色ある学校づくりが推進されるということも、どこでもほとんどメリットになってないです。学校も切磋琢磨することで活性が図られるということも、東京都なんかは学力テストの良い成績をあげるために、同じテストを何回も繰り返させるとか、ひどい場合には、校長によるでっちあげも起こったりして、それを活性化というかどうか、そういうことをきちんと伝えていないと思います。
それから課題ですけれども、廃校になるということです。東京では、150校廃校になっています。橋下大阪市長はこの学校選択制っていうのは、廃校にするためのものだとはっきり言っているわけで、きちんとそういうことを書かないといけないと思っています。デメリットで、今まで少なかった人数なのに生徒が殺到したために詰込教育になってしまったということ、また自由選択制の学校では、兄弟姉妹が同じ学校に行けないことが起こっているということをまったく伏せて、皆さんに学校選択制を選んでというのはひどいと思います。細かい単位で説明会をする時には、きちんとみんなに情報を提供してほしいと思っています。それから、どこで決めるかが全然わかってないです。東京都の場合は、東京の区に教育委員会があり区長も公選ですから区として決められるんですけども、旭区とか大阪の場合は、まったくそういうことが決められません。たぶん、今決めるとしたら、大阪市の教育委員会だけだと思うんですけども、そういうことも含めてまったくふれていない。非常に意図的だと思っています。

(教育委員会事務局)

学校選択制のメリットと課題というところで意見をいただいたのですが、私どもの把

握している、特に東京都の23区の実態とか状況とかが、本日説明させていただいている内容になっています。いま、言われた様な意見についても、今後私どもとしましては、来週以降から立ちあげます熟議のほうで、秋口までにいろいろ議論させていただきたいと思えます。そういう熟議の状況も、これからホームページなどでも公表させていただきますし、今言われたような保護者への説明の時にも、動きとかわかったことについては、広く公表していきたいと思えます。

学校選択制をすることによって、統廃合につながるのではないかというご心配ですが、東京都の場合150校とか言われていましたが、今大阪市教育委員会としましては、もともと統廃合の考え方というのが、学校適正配置審議会で平成22年2月に答申を出してございまして、その方針に基づいて適正配置の取組みを進めてございまして。これから学校選択制を導入していくのかどうかというのは、まったく切り離れたかたちで考えてございましてよろしくお願ひします。

制度設計等については、熟議をこれから実施して、教育委員会のほうで決めてまいりたいと思えます。ただ各区で導入して行くかどうかについては、現区長並びに公募区長のほうで、最終的にはご判断いただくかたちになると思えます。

- まず、初歩的な質問になるんですけども、学校選択制というものの目的は何でしょうか。

(教育委員会事務局)

これを検討するきっかけということで言いますと、学校選択制が、市長の選挙公約にもあがってました。市長が、事前のいろんな活動の中で、例えば10人の保護者がおられたら、そのうち何人かの方は、区長が指定する学校以外の学校を希望するのではないかとということで、実際選挙の際に各区で開催された区民会議などで、学校選択制をテーマの1つにしてあげられて、子どもを持つ保護者に意見を聞いたところ、参加された多くの方が賛成の意向を示されたということから、市長としてはニーズが高いと思っております。

教育委員会としましては、これまで区民の方、保護者の方の意見を聞く機会を設けていませんでしたので、こういう場を設けさせていただきました。目的としましては、先ほどメリットということで出させてもらってございますけれども、他都市の状況から、学校の活性化ということで、例えば授業を公開したり、保護者が実際にどの学校が良いかを見て、学校に入る前から学校に関心を持ってもらえるということです。それと当然、当該の児童と保護者にとっては、選択ができるということがあります。

- 市長の選挙公約なので仕方がないということがわかったんですけども、これは質問というか意見ですけども、学校の魅力というのは、まず設備であり、そして何よりも教師の魅力だと思うんですね。

私自身、いわゆる校内暴力がすごい時に小・中学校を経験しまして、この時に私の行っていた中学校も非常に校内暴力が盛んで、マスコミざたに何度もなりました。そこに、教育委員会の方がされたんだと思うんですけども、あらゆるところから魅力ある教師を集めて、すべてを押さえて、結局一番人気がなく進学率も悪くて校内暴力が盛んだった学校が、数年で市内、大阪市内じゃないんですけども、有数の進学校になった。結局は、教師がそれだけ頑張ったということで、教員の魅力を高めていかないといけないんですけども、この学校選択制の中で思いますが、学校側は教師をどう育てていくのか、また、私たちの子どもたちが入ったあと、その教員がそこにずっといていけるとも限らないですし、その

学校の設備もどうなっていくかもわからない。そんな中で、この学校選択制は、親に丸投げですわ。責任は、選んだ親が取れと。今の市長の公約は全部そうなんですけれども、あなたたちが選んだ私は市長なんだから、私の言うことにいちいち文句を言うなという態度を、非常に取られているように思うんですけれども、この学校選択制においても、そういう勝手なことで進められないようにお願いしたい。

- 旭区にずっと住んでいる者なのですけれども、区長がさっき言われたけど、誰が決めるかというのは、今の山本区長じゃないでしょう。新しい公募で選ばれた区長ですよ。これはもうはっきりしているわけです。教育委員会は制度設計をしようと言っていますが、その制度設計以前に、なぜするのかという問題をきちんと区民に徹底すべきじゃないかと思います。先ほどの説明の中で、メリットと課題と書いていますが、課題じゃないんですよ、デメリットですよ。そういうふうきちんと表わすべきではないかということです。中身の問題で一番気になるのは、子どもの安全と安心の問題について、これはそういう問題もあるでしょうと言われましたけれど、私の子どもも学童保育に行っていましたから、小学校から子どもの足でもだいたい行くのに20～30分かかるんです、これは親にとってはすごく不安です、この子どもの安全を本当にどうするのか。今の話を聞いていると、すべてなんか保護者対応というようなふう聞こえてならないです。

それから、統廃合の問題は、今教育委員会の方は別問題だと言われましたけど、これはそんなもう嘘でしょう。大阪市の場合、3分の1は学校統廃合にすると、その根拠は今やってしまうと問題があるので、まず選択制をひいてそこで人が集まる学校と集まらない学校、集まらない学校はそういう経済メリットも意味がないということで、それはもうなくして当然ですというのが橋下市長の考えで、それに基づいてこの学校選択制が今図られているのははっきりしているわけです。この人が集まる学校という点では、学校の先生もたいへんやけれど、アピール活動もたいへんなんです。これ東京の江東区の新聞見ても、学校の先生が授業ほったらかして、自分たちの学校に生徒が集まるために、いろいろPR活動でたいへんな状態になっているということです。

それからもう1つ、保護者がたいへんになりますよ。PTAの方が、こういう問題も含んでこれははっきりと全国の例も含めて言われるべきではないですか。

(教育委員会事務局)

繰返しになるんですけど、先ほど申しましたように、学校選択制が統廃合につながるということのために、検討していただくのではないということだけをお伝えしておきたいと思います。

- 私たち孫がいる年齢なんですけど、教育委員会の方が来ているし、若い方たちに素直なことをもっとしゃべっていただく場にしていただきたいと思います。そして、ほんとに教育委員会の方たちが、もっと上の方たちに実態として言える場にしてほしいと思います。ほんとうに若い方たち、どんどんしゃべってください。お願いします。

- 子どもが3歳と0歳で、古市小学校区に住んでいます。ちょっと具体的なことをお聞きしたいと思っています。

古市小学校ですと、小学校で隣接区域選択をすると、新森、清水、太子橋、大宮、高殿も入りますかね。先ほどおっしゃったみたいに通学の行き帰りは、親が責任を持つというの

はそうなのかなと思うので、自分の子どもは古市に通わせたいなと思うんですけど、うちの子が隣の席に座った男の子と友達になって、その子が太子橋の子だった場合、私はその子と遊んだらあかんと言わないといけないのかなと思うと、ちょっとおかしなことにはならないかなと思っています。

この時期たぶん、学校の先生方は家庭訪問をされると思うんですけど、どうされるのかなと思うし、学校からわが子が帰ってこない、どこの公園で遊んでいるのかと思ったら、古市校区の公園探せば良いかと思うんですが、太子橋の公園までは探しに行かれないし、学校の先生に電話したところで、学校の先生が太子橋まで探しに言ってくれるのかなってすごく不安に思っています。東京なんかでも、学校選択制をして、家庭訪問やめたというところもあると聞くと、先生と地域がどんどん離れていってしまうのではないかとすごく不安に思っているのが1点です。

もう1点は、新聞で橋下さんが、3分の1の学校をつぶすっていうのを聞いて、何ていうことをするんだと思っているんですが、さっき教育委員会の方が言われた、旭区で11学級以下の学校がいったいどれくらいあるのかを聞きたいと思います。単学級になっていると、やっぱり保護者としてさけていってしまったら、今は統廃合対象ではないのに、対象になってしまうんじゃないかというのはすごく思います。

(教育委員会事務局)

学校選択制の導入うんぬんというのは、まだこれからなので、仮定の話でさっき言われたと思うんですけど、例えば古市小学校は隣接校区ということでいけば、確かに接している学校区では新森、清水、太子橋、大宮、高殿です。これは、導入されてなおかつ選ばれたのが、隣接であればという話になるかと思います。そういう話で進められていく中で、家庭訪問等をどうするのか、実際そういう制度であればどうしていくのかというのは、これから考えさせていただくことになると思います。

それと小規模校の学校の状況ですけれども、旭区の中で11学級以下の学校は、23年5月現在では2校あります。

- 小規模校の統廃合、これは前からあります。たぶん今、複式学級の小学校もあるのではないですかね。1学年1つで6クラスしかない小学校も確かあったと思うんですけども、そういう問題とこの学校選択制、非常に連動して考えていかざるを得ない状況がある。全国自治体の実施状況、平成18年度小学校と中学校の数を書いていますけれども、これからいうともう6年たっていますので、この18年度と現在で、実施しているところの数が、増えているのか減っているのかを聞きたい。
学校選択制のデメリットの問題としても必ず落ちこぼされる。統廃合に廃止のほうで、子どもとしても落ちこぼされる問題は出てくるはずなんです。これよかったら、答えていただきたいんですけど、そういう落ちこぼされる問題の心配についてはどう考えているのか。それから、熟議はいつから始まるんですか。

(教育委員会事務局)

全国自治体の実施状況ですが、調査が18年度以降実施されていないので、数字として、増・減についてはお答えできません。

熟議は、4月26日に第1回の熟議の予定をしております。

落ちこぼれについてということですが、学校選択制があってもなくても、子どもた

ち一人一人の学力を保障するために、学校や教師が努力するということが絶対しないといけないことですし、現在、いろいろ問題がある状況があって、保護者の方の意に100%そえているとは言いがたいのかもしれませんが、学校としても教育委員会としても、子どもたちの学力向上のためにいろんな施策をうつなり、習熟度別指導というようなかたちで、子どもの能力に応じた指導を続けるとか、教師の指導力をあげるとか、いろいろなかたちで努力はしております。選択制をしたから落ちこぼれができるとか、落ちこぼれても良いと思っているということではもちろんありませんので、どんなかたちであれ、子どもたち一人一人にちゃんと学力をつけていくのが、学校の責任であると考えております。

- 私この10年ほど、まちかどに立って小学生の登下校の見守りをしているんですけど、もう私が始めたころの子どもは、今大学生になっていて顔なじみです。私のところの町会は、小学校に近いのでそれほど心配してないんですが、もう少し遠いところの町会になると、1号線を渡って子どもが通学するというので、その町会から学校まで見守り隊の方は、集団登校についておられる。なかなかたいへんだなと思って、いつも見ているんですけども、この選択制になると、Aの学校にBの学区の子が来るとなると、そういうきめ細かな見守りができないのが、ちょっと心配だと思っています。

それと、町会単位で子ども会を作っているいろいろな活動していますが、これはまあ言えば、子どもの非行防止の1つの役割とも思っています。まちのコミュニケーション、子どもと一緒にものを考える、あるいは行動するという意味で、非常に良い役割を持っていると思うんですが、こういうこともちょっとやりにくくなるんじゃないかなと心配しています。

もう1つ、これは教育の問題とは関係ないんですが、先ほども統廃合の問題を言われていましたけれども、いくつか少子化で子どもの少ない学校はありますから、ますます少ない学校が出てきて、廃校になるところが出てくるのはまず間違いないと思っています。学校というのは、実は子どもの教育の場だけではなくて、それぞれの町会にとっては、やはりセンターでもあるわけです。例えば、私も町会では、震災になったら高殿小学校が避難地域です。もしそれが廃校になったら、われわれの避難場所がよその学校、遠くへ移るではないかと心配しています。子どもの人数は減っていますけれども、旭区の人口はそれに比例して同じように減っているかと言えばそうでもないで、避難場所が例えば今15ヶ所あるが10ヶ所に減るとしたら、避難場所が過密化するんです。いざという時に、十分避難所の役割が果たせるのかなという心配もするんです。そういうのは、たまにあることだからわかりませんが、去年以降、震災が非常にあちこちで起きてきて、もういつ起きてもおかしくないという状況がある。町会の皆さんが心配されていますので、仮に統廃合が起きても、避難場所が確保できるようなこともあわせて考えていただきたいと、これは要望として申しあげておきたい。

- いろいろご意見ありがとうございます。私がこれを聞かしていただいて、もうこの制度はうちうちで進んでいて、了承してくださいというような感じに聞こえるので、もちろん何をするにも意図があって、その後メリット・デメリットが出てくると思うんですけども、その意図のところはすぐわかりません。なんで、これが出てきたのかというのがわからないので、まずしていただきたいのが、もう1回白紙の状態まで戻して、先ほど小さいお子さんのおかあさんが言われたように、これから関わる方の家庭や今在学中の家庭に、給食と同じようにまずアンケートを送って、意図をしっかりと出されたうえで、ほんとうにそれを皆さんが望んでおられるかということを見ていただきたいと思いました。あと、小学

校というのは一番小さなコミュニティだと思いますので、そのへんの小学校の問題、あの教育の問題だけではないと思いますから、皆さんが求められているかというところをしっかりと確認したうえで進めていただきたいと思います。

(区長)

今の点ですけれども、私は、橋下市長は日ごろ選択する権利、選択する自由っていうのを、非常に大事にしているということを言われていると思います。

学校選択制を実際に導入されているところも、7割とか8割は本来の校区を選択されているわけです。ただその中で、違うところを選びたいという方がおられたら、今はそのすべがないわけですけれども、それを確保したいというのが意図なのかと思っています。今言われました、実際にご希望されているのかどうかをもっと聞くべきではないかという意見については、ほんとうにそのとおりだと思っています。これは学校とかPTAの皆さんにもご協力をいただくことになるんですけれども、保護者の方に、例えば郵送とかそういうのはなかなか経費がかかりますので、学校から持って帰っていただいて、また学校で回収をしていただいて、それを区役所のほうで聞きに行くというような方法を工夫して、できるだけ多く実際に子どもさんがおられる方々、また小学校にあがろうとしておられる方々の声というのを聞いていきたいと思っています。

- 孫が小学校に行ってみて、こういう場で発言するのはどんなものかなと思ってましたけれども、先ほど若いおかあさん方の意見がもっと聞きたいというのは賛成です。ただうちは、両親ともども勤務なんです。この学校選択制で意見交換会されると聞いた時から思ってたのは、ほんとうに保護者の意見を聞こうとしておられるのかどうか疑問に感じました。今日も全保護者からするとごく限られた人数ですし、ほんとうに聞く意思があれば、いくらでも小さな規模でとか、学校をとおしてとか、もっといいに聞ける機会、方法があるのではないかなと思ってたんです。この意見交換会というのは、どういう効力があって、このあとここでのアンケートをどのように結果をまとめていかれるのか、どう利用されるのかというのを聞かせていただきたいです。

もう1つは、今良い発言をしていただいて感動しました。私、この春、小豆島の二十四の瞳の分教場へ行ってきたんですけども、二十四の瞳だから12人で、学年2人ですかね。だけど、やっぱり教育というのは、先生と生徒たちの交流によって、信頼関係によってつくられるものですよね。設置基準がどうのこうのとか、効率が悪いからといって切り捨てられていくということがあってはならないと思うんです。今日は、すごくいいお話を聞かせてもらって良かったと思うんです。現場の先生方の意見もどこで聞かれるのかなという疑問を感じていますので、もっと現場の先生の意見も聞いて、検討されたらどうなのかなと思いました。

- 私はもう85歳になりまして、むずかしいことはわからないんですけど、私の親が今おりましたら、弁当持っていかずと言うと思うんです。もちろん、学校選択制についても、大賛成やと思うんです。と言いますのは、私は子どものころ非常に偏食でして、親は一生懸命に私の好きなものをつくってくれたわけです。昔のことですから、給食というのがなかったですから。給食があっても、おまえの好きなものをつくってあげるというであろうと思うんです。また、そういう親御さんも何人かおられるんだろうなと思いますけれども、私は、戦争がすんで配給制になったので、好き嫌い言っておれなかった。タンポポでも食

べたので、好き嫌いがなくなって何でも食べるようになりました。おかげで、この年になっても、年のわりには元気にしていただけるのはそれではないかと思います。実際、私の姉と兄は、就学中に宿替えをしまして、そこから越境入学していました。それぞれ、子ども同士で遊ばれない、私と妹は近所の子どもが遊びに来るは、遊びに行ったりして、うらやましいなあと言っているんですね。だから親が、子のために思ってしまったことが、かえってあだになるのではないかと思います。年寄りの愚痴みたいですけど、もし参考に聞いていただけたらありがたいと思います。

- 中学校給食と選択制にもつながることだと思いますけど、義務教育である小学校や中学校で、中学校給食が実施されるのは当然だと思います。全国8割で、中学校給食が実施されているのに、この大阪に中学校給食がなかったこと自身が、おかしかったのではないかというのはいすごく思っています。

今、中学校2年生と3年生の子どもを持っている母親です。ただこのアンケートですけど、全員喫食かもしくは選択制かという、この2つしか聞かないこと自身にすごく疑問を感じます。昼食提供事業をされていますけど、食べている子どもたちは何%ですか。何で食べないのって言えば、揚げものばかりで、ほんとうに子どもたちの食を、食育としての給食にかえるものではないからではないかなということも含めて、そのことに牛乳がつくだけの弁当給食がほんとうに給食って言えるのというのは、すごく不満だし疑問に思います。やっぱり教育の場で、私も和泉の中学校給食みてきましたけど、教育の一環としてやられている給食が、子どもたちにとっても、親にとっても、地元にとってもほんとうに大事なものになっているというところで、たくさん子どもたちが大阪市の中学校にかよっていますから、どんな給食がされるのかということも見えない中で、このアンケートだけで、やるってということが前提で聞きたいのはこの2つというのは、ちょっとかなっていのをすごく感じます。

(教育委員会事務局)

1点目ですけれど、今日の資料の方では設問だけを書いているんですけど、1月に実施したアンケートでは、弁当箱でのデリバリー方式であることなど書いたうえでお聞きしています。今日の資料の中学校給食の概要1・2に書いているようなことについては、きちんとアンケートの調査票には書いていますので、何もなしで全員喫食が良いか、選択制が良いかだけを聞いているのではないということ、まずご理解いただきたいと思います。それから、今現在、行っています昼食提供事業の利用率の話があつたのですけれども、大体7%から8%の間で推移しています。今の方のご意見にもあつたのですけれども、揚げものが多いのではないかということです。冒頭区長からの説明にもあつたと思うんですけども、現在の昼食提供事業は、民間の調理事業者が献立を作っていて、この献立に基づいて日々の弁当があるんですけども、学校給食になりますと、教育委員会におります専門の栄養士がきちんと栄養価、栄養バランスにも配慮された献立を作っていきたいと思っています。学校給食が教育の一環というのは、我々も当然そのとおりと考えておりますので、きちんと教育の一環としての学校給食を実施してまいりたいと考えています。

- 小学校の子ども2人と就学前の子どもがいるのですけれども、デリバリー弁当というのはもう決まっているのですよね。学校ではアンケートをとったかもしれないのですけれども、現在私の子どもは、小学校1年生と3年生、就学前の子もいるのですけれども、その子た

ちが食べる給食になってくると思うんですけど、その学年には全然アンケートとかはなかったんです。もうすでに学校の中でつくる給食ではないっていうのが前提になっているのもどうなのかなと思っています。私としては、もちろん小学校みたいに中学校でも学校の中でつくってほしいと思いますし、先ほどデメリットの中でも、体格によって食べられる量が違うけど全員一緒になるということがありましたけれども、今現在小学校とかではおかわりもできますよね。自校でつくって配膳しているところだと、教室でおかわりもできますし、量の調整もできると思うんです。しかも温かいです。そういうのがなぜ、最初から外れているのかなと、それが一番疑問です。先ほど町会の方も言われていた学校が災害拠点になるという話なんですけど、そういう時にも給食室が学校にあるということが、すごく大事だと思うんです。小学校でも中学校でも給食室があると、炊出しにもたいへん便利だと思いますし、そういう点からも、お金がないないというのもわかるんですけど、どうして学校に給食室1つつくってくれないのかなというのが、すごく親としては疑問に思います。

(教育委員会事務局)

今のご意見にありましたように、この1月にアンケートをした段階で、デリバリーというのは決まっていた。少しだけさかのぼらせていただくと、平成20年に、外部の学識経験者、保護者の代表、学校長の代表、教育委員会で、中学校給食を考える中学校給食検討会議を設置しました。その中で今言われたように、小学校みたいに学校の中に給食室を作って実施する方式とか、あと大阪で一部あるかと思うんですけど給食センターを作って実施する方式、小学校から中学校へ運ぶような親子方式、今進めています民間調理のデリバリー方式等々、いろいろ検討してまいりました。経費的な問題ももちろんあるのですが、大阪市の中学校ですが、敷地が大きな学校、非常に小さな学校、校舎など施設的な問題でも、教室に余裕のある学校、現状の生徒で定員ぎりぎりな学校、いろいろございまして、本当に給食室を作るということが物理的にできない学校もあります。この弁当方式でも取りに行くところとは同じですけど、小学校みたいに給食室で給食を作りますと、そこから教室に持って帰って、配膳するということが出てくるので、昼食の時間が今より長くなります。もともと授業が小学校より長いとか、放課後クラブ活動とかいうこともありますので、総合的に検討しまして、デリバリー方式でということ考えております。

- 今の学校に給食室を設けてということが無理な理由として、配膳であるとか、準備等に時間がかかるので授業の時間の確保に支障が出るようなことを言われましたけれども、統計的な数は知りませんが、全国には学校内で調理して、子どもたちが配膳をしている中学校がどれだけあるのか。その中で子どもたちがどのようにそういう活動をとおして、成長しているのかということを考えていただきたいと思います。お互いに協力をして、大切な食事の時間を持つということが教育効果ということを考えていただきたいと思います。決して授業の妨げにはならないと思います。実は、うち中学生と高校生の子どもがいますけれども、上の高校生が中学1年のころだと思いますが、やはり大阪で、デリバリーの給食を入れるということでアンケートがありました。親も働いておりますし、デリバリーであってもありがたいなと思って、半分ぐらいの親はデリバリーでも入るのは賛成という数が出ていましたけれども、子どもが食事の好き嫌いをするとか、デリバリーの内容によってかわいそうだとか、量の加減できないのでお弁当のほうが良いという親

もおりました。うちの子どもは弁当が良いという理由としては、やっぱり給食当番が面倒だからと言うんです。子どもの弁当を選ぶ理由としては、そんなところです。配膳作業が面倒くさいだとか、子どもの選択だけを許してしまったら、教育効果や栄養面というのがおろそかになりますし、あと財政面だけで、給食室がつかれないというのは、教育というものから離れているんじゃないかと思います。できれば、親の負担を考えていただくうえでは、デリバリーから出発して、ゆくゆくは1校からでも、成長期の子どもにあった量も加減でき、栄養を考えられた給食室をつくっていただきたいと思います。

(教育委員会事務局)

意見としてきちんと受け止めさせていただきたいと思います。

- 学校選択制の目的が何だというのが、1番わからないところです。市長が公約の時に言ったから、それしか言いようがないというのが実際のところかなと思っています。すごくあいまいな根拠による学校選択制かなと、私は感じているんです。必死になってメリットを探していたんですけど、どうもみつからないというのが正直なところです。公立学校って、どこの学校でも同様の教育を提供するっていうのが基本と思っているんですが、それが聞きたいところです。

それと学校によって設備の差が、実際あるんじゃないかなと思っています。クーラーがあったり、エレベーターがあったり、配膳室があったりいろいろあるんですが、それも選択制の基準になってくるのかなと思います。特に人事異動によって教員も変わってくるとなると、私立高校・中学校・小学校なりでは、確かに特色を出せるのだろうかなと思っているんですが、普遍的などこの学校でもできる教育をめざし、提供することであれば特色というのはどうやって出すのでしょうか。

特色を持った学校をつくるということであれば、いかにして特色のある学校をつくるのか。その結果、保護者は学校を選択するとなると、選択する基準が、テストの結果、立地条件、設備条件、あと何ですか、うわさですかね。このうわさも基準になってしまう選択制っていかなものかな。それに対して、どう思われているのかを聞きたいんです。

先ほどの設備の問題も含めてなんですけど、どんどん人が少なくなったら、学校間の格差が大きくなってくる、設備の差はまた出てくるのかなという気がするんです。児童が少なくなったら、学校の設備も必然と悪くなってくる。先ほど言っていた学校が統合されて、廃校になっていくという流れになるのではないかなと思っています。疑問はたくさんあって、何も決まってない中で質問しているんで、これからどうなっていくのか、具体的にどうやって、区民・市民に情報を発信していくのかということも、答えていただきたいと思っています。

(教育委員会事務局)

メリットということでは、特色ある学校づくりが推進されるということですが、基本的に義務教育で、文部科学省が決めています指導要領に基づいて、その範囲の中でどうやって特色をつくっていくのかという質問だと思います。われわれも、これからどういう過程で、特色づくりをしていくのかというのを検討していくわけですが、他都市の実例を見ますと、学校の年間目標を決められて、総合的な学習の時間を活用して、例えば地域の方にご協力をいただきながら、環境問題とか、その地域の歴史とかを進めていかれる中で、いろいろ学校ごとに特色を出していくということだと思います。

先生自身も特色づくりに関わることになるので、良い意味の先生方の意識の向上も図

れるのではないかと考えています。保護者自身が学校を選ぶということで行くと、これも他都市事例ですけれど、学校案内、学校の公開ということで、実際学校を見に行っていて、非常に関心を持っていただくということもメリットだと思います。

ただ言われるとおり、現行の校区があって、そこであがっていくのとどうなのだというのはあると思います。そういうメリットをわれわれとしては、他都市の実例も見て考えさせていただいています。確かにうわさの関係もあるかと思うのですが、今言うような学校案内とか学校公開等、自分の目で見ていただいて確かめて判断していただくことになると思います。

あと設備のほうですが、基本的にはほとんど均等です。大きい小さいがあったらということは、まずないと思うのですが、順番は確かにつけていきます。例えばクーラーをつけていく順番はどういう順番で、それは方針であるのだと思いますが、それが大きいから小さいからということはないと思います。

- それに関わってなんですけれども、学校のうわさっていうのは、ここの学校が良い、悪いといううわさというのは、いろんなところで聞いておられると思うんですけど、小学校であるなら、それらが基本的に選択基準になる可能性は高いと思うんです。中学校になったら、自分の意思で学校の良い、悪いというのは、ある程度情報管理できるんですけど、小学校になると親の感覚が大きいですね。それはかなり危険なことだと、私は思ってるんですが、そこはいかがでしょうか。

(教育委員会事務局)

先ほどの資料にも、見直しをした自治体の中で、確かに杉並区ですかね、風評などという学校活性化と無関係な理由で選択されてきていることが、ひとつ問題ではないかということも言われていますので、こういうことも大きな要素ではあると思います。だから、こういう意見をふまえて、われわれとしては制度設計をさせていただこうと思っています。

- 新森に住んでいます。自分も新森小路小学校、旭東中学校へ行き、子どもも同じように行っています。僕が行ったころ、新森小路小学校は4クラス、清水小学校は7クラスでした。今、新森小路小学校は4クラス、清水は2クラスになっています。何でそうなのかなと考えています。今これをされていますので、ぜひ旭区にとって良いのかどうかを考えていただきたいし、僕らも発信したいと思っています。先ほどのうわさの件とか、いろんなことがあります。うちの学校は土壌がありますし歴史があります。今までやってきたことや、弱い立場の人に対して大切にしようとか、人権を大事にしようとしてきたのが、まったく何にもないように、この選択制で語られるのがすごく嫌だなと思います。これから先に行って、やっぱりこっちのほうが良いなというようなことで、子どもたちの数が減っていく学校ができてくる。今までいろんな歴史で頑張ってきたところがなくなって、学校が潰れていくのが、ほんとうに良いのかどうか、教育委員会の方々、区長ぜひ頑張ってくださいと思っています。市長が言ったからでなく、それに対して現場ですっとやってきた者には実績があるし、こういうような現状があるんだということをぜひ言っていただきたいし、こういう意見交換会は、反対の人ばかりが来るから、反対の意見が出るのがあたり前だと言って、市長はツイッターをやっていますけども、そういうのではなくて、ほんとうに住んでいる者からしたら、切実なのだということをぜひ言っていただきたい。ぜひ頑張ってくださいと思っています。この会がほんとうに賛成ありきで、開催したという

だけではなくて、課題もよその区のことを考えてする、それをいろいろと調べられて、今回も課題も書かれている。私はそのようなやり方は、すごく良いと思いますし、頑張っておられると思います。ぜひとも教育委員会、区長、頑張ってくださいと思います。

【区長あいさつ】

たいへん長時間、貴重なご意見いただきまして、どうもありがとうございました。

前から見ていまして、ずうっと最初から手をあげていただいていたのですけれど、指名することができずに、ご意見をいただくことができなかった方もおられます。ほんとうに申しわけございません。司会や進行のほうからもありましたけれども、自由意見欄等々で、いただけなかったご意見等につきましてもお書きいただけたらと思っておりますし、実際に皆さんがどう考えておられるのか、どういうふうに思っておられるのか、それをしっかりと把握せよというご指摘もございましたので、ほんとうにそのとおりだと思います。きっちり皆様方のご意見を聞いて、それでまた教育委員会のほうでも、全部集約していただいて、熟議などもやって、またこちらに返していただくという、きっちりとサイクルをまわしていきたいと思っております。本日は、ほんとうにありがとうございました。